



國
員
畫

三十三編下

種
員
紀

1178
66

物

種

種
員
紀

紀

三十三
編上



三十三
編上

三十三編上

1178
65



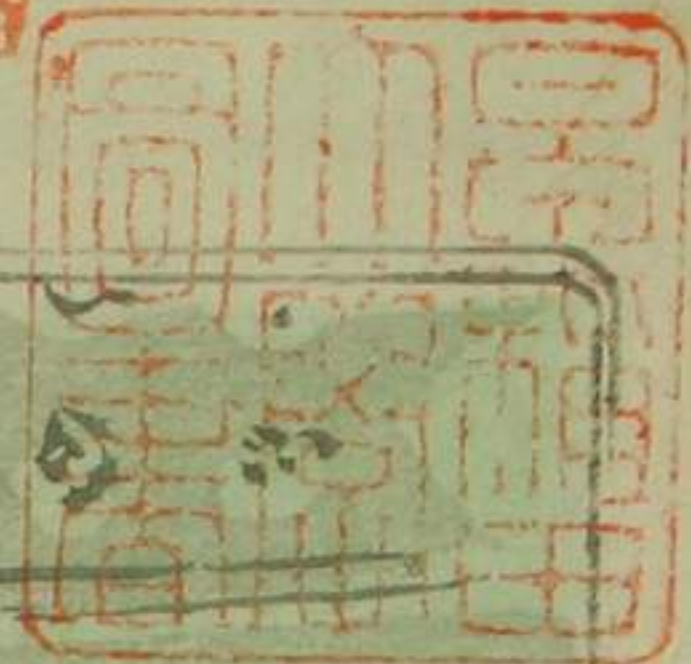


如十三輯

ら志

三十三
上

特
へ 13
1178
65



1178
65

白縫物語三十
三編上册種員
作國貞画板元
廣岡屋壽梓

魚
魚



一人愚弱体の狂歌行も、頃々美しく、咲き所あり。狂といふ名を何
と心得る。天明風調こそ、狂歌といふ。論有てか、さうさう。歌舞妓狂言と号
せよ。滑稽登場を主とせず。秋嘆の利。踊躍の上手にあつた。魁伶と貴重ぬ。難
さう。是は、膝栗毛八笑人の類をこと。戯作ともいふ。さうさう。怪談や人情本、戯
たる所、希まう。合巻、近頃可咲の、弥慶も、彩色も、幽寂を、さへ、闇の引出し。
漂々所、口画も、威勢が、有て、可との注文、戯字の論を、誰とらん。按ふに、古
狂歌といふ、自己歌を、卑下し、る。語。戯作も、文学研究の間、鬱散の戯作と云
意と、る時、その体と、指し、非ず。楊枝と、稱て、黒文字と、用ひ、茶屋茶と、鬱散と、酒者
勸む、ことを、陳謝ある、中、此草、學、菊地と、目け、實、い、さ、う、ぬ、物語と、さ、う、ぬ、ひ、ゆ、も
あ、と、い、と、ど、そ、こ、う、戯作と、外、め、た、ま、ぬ、取、立、こ、も、有、と、れ

校者 柳亭種彦 迹

三下三





よのちをあらと
まゆめをうそ
あつちりちくあ
よりんねせ
まひまあんせ
あひつんせ
させりせ
あつちりちくあ
よりんねせ
まひまあんせ
あひつんせ

あつちり
くち
あつちり
くち
あつちり
くち

あつちり
くち
あつちり
くち
あつちり
くち

よのちをあらと
まゆめをうそ
あつちりちくあ
よりんねせ
まひまあんせ
あひつんせ
させりせ
あつちりちくあ
よりんねせ
まひまあんせ
あひつんせ



あつちり
くち
あつちり
くち
あつちり
くち
あつちり
くち
あつちり
くち
あつちり
くち



さるまゝとちちあつたて
 とあせりてあつたて
 わぐぞのちかかひのち
 とよふひととよふま
 らんせもちね
 さてもまら
 ベんまら
 くと
 と川
 やまら
 の
 の

ちちあつたて
 けさのまら
 ひちち
 ちと
 さま
 の

ちちあつたて
 のまら
 ちと
 さま
 の



さるまゝとちちあつたて
 とあせりてあつたて
 わぐぞのちかかひのち
 とよふひととよふま
 らんせもちね
 さてもまら
 ベんまら
 くと
 と川
 やまら
 の
 の

ちちあつたて
 けさのまら
 ひちち
 ちと
 さま
 の

ちちあつたて
 のまら
 ちと
 さま
 の



三
 二
 一

月夜に舟に乗りて
 舟のなかにありて
 舟のなかにありて
 舟のなかにありて

舟のなかにありて
 舟のなかにありて
 舟のなかにありて



三
 二
 一

舟のなかにありて
 舟のなかにありて
 舟のなかにありて

舟のなかにありて
 舟のなかにありて
 舟のなかにありて

舟のなかにありて

五

あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち



あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち

あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち



あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち

あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち
あつちのうらやまのふつたてあつち



かんた
せり
さか

あまの
つゆ

あまの
つゆ



あまの
つゆ

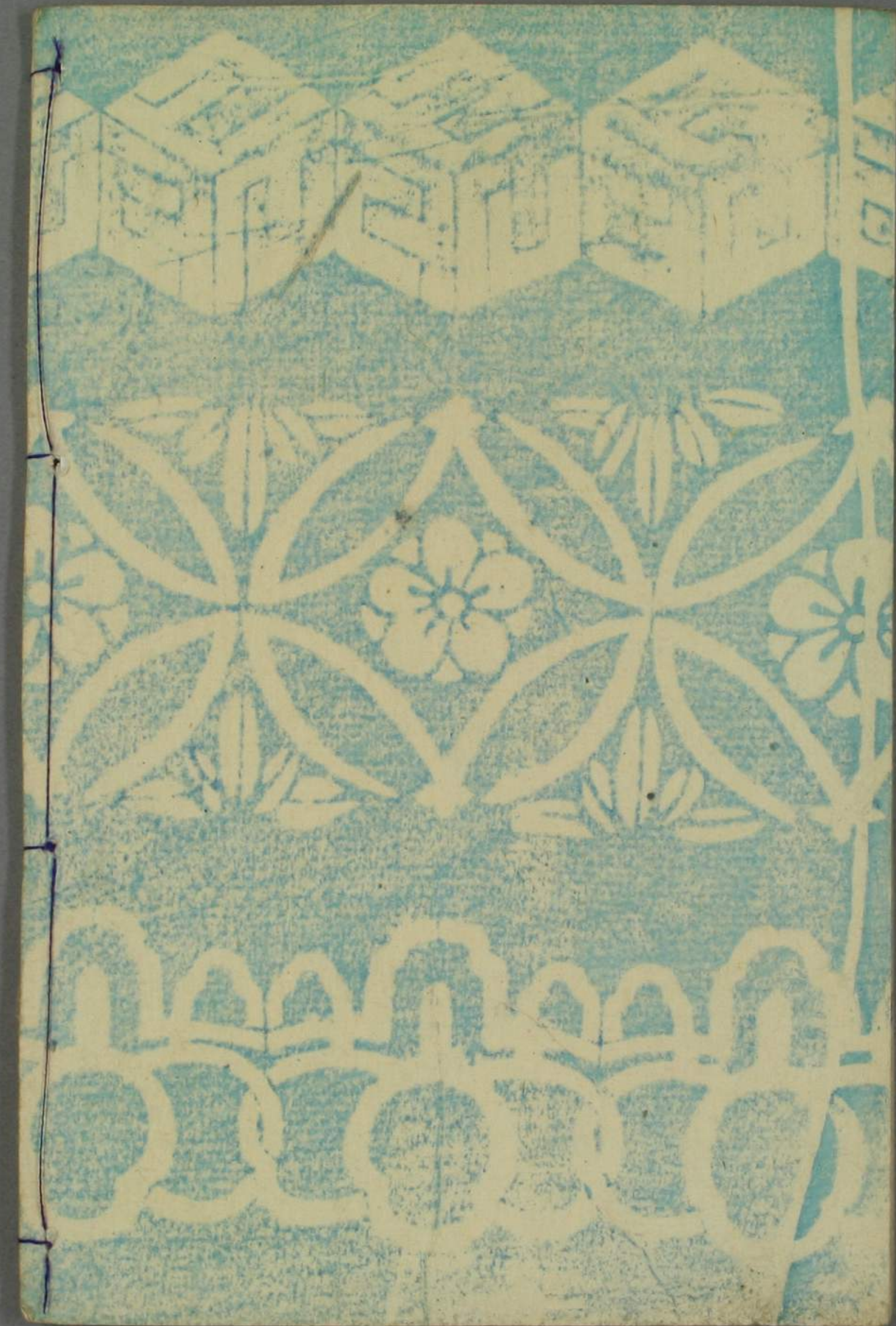
あまの
つゆ

あまの
つゆ

あまの
つゆ

あまの
つゆ

あまの
つゆ



國
貞
畫

三十三編下



物
語

種
員
紀

種
員
紀

13
1178
66



△ひん
くさくさ
ものまもつた
なれどあえ
うりておる
大かぬへち
くひせつこ
ふんをさる
しんをせ

△ひん
くさくさ
ものまもつた
なれどあえ
うりておる
大かぬへち
くひせつこ
ふんをさる
しんをせ

△こま
かまそり
てゆく
いのり
めま



△ひん
くさくさ
ものまもつた
なれどあえ
うりておる
大かぬへち
くひせつこ
ふんをさる
しんをせ

△やせ
ねん
かみ

△ひん
くさくさ
ものまもつた
なれどあえ
うりておる
大かぬへち
くひせつこ
ふんをさる
しんをせ



柳下亭種員稿

一書時齋國貞画

柳亭種彦 校合



備書
交來

世にそのまのまのいひやうにありける
 せいせいのうへそこのまのまのいひやう
 トいそまて山がいのかんじちり物
 ふこそあて一かざりたすまの
 まふとりのそりのころさん
 こめりととりかれいらいん
 むてあてとてうづの
 あつともあり
 ねこのあつた
 へそのまめ
 ちんちん
 まをさへと
 まをさへと

△ちやうさ
 ちやうさ
 あつともあり
 ねこのあつた
 へそのまめ
 ちんちん
 まをさへと
 まをさへと

△ざらちやうさ
 ざらちやうさ
 こつとすま
 うみあつともあり
 ふたかんざり
 あつともあり
 ちんちん

浪種黄金鮎

三編詩切
 其水作同詩切
 有人作同詩切
 其水作同詩切
 有人作同詩切

北本草紙の底

江戸内門伝寶印 廣園齋素助様

